上京区140周年記念

上京
史蹟と文化

2019 VOL.57

美を創る

樂焼　陶芸家
十五代吉左衛門　樂 直入
上京区油小路通一条下ル油橋詰町

「茶の湯」のための茶碗づくりを続ける「千家十職」の一つ、樂家十五代の吉左衛門さん。創始者の長次郎が天正17（1589）年に亡くなり、没後430年になる今年、当主を長男篤人さんに譲り、隠居名の「直入」を名乗ることになった。正式には7月8日付けをもって上京区役所に戸籍名変更届けがなされた。長年、作陶に打ち込んできた直入さんに、樂茶碗に対する思いをお伺いしました。

父の十四代覚入逝去に伴い32歳で十五代を継いだ直入さん。一子相伝の技を継ぐことに抵抗はなかったのでしょうか。「父の急逝は抵抗する間も与えてくれませんでした。でも決心はすでに済んでいました」。直入さんは1949（昭和24）年生まれ、父の作陶を目の当たりにして育った。「いずれ自分が継がなければ」と言う運命を背負って小学生の頃から『葛藤』があった。「陶芸の勉強は一切しなかった。東京藝術大学美術学部でも、陶芸ではなく彫刻を専攻した。近づくと吸い寄せられ自分をなくしてしまう気がして、『抵抗』していましたね」。

「大学を出てパッカー同然にイタリアに渡り、ローマのアカデミア美術学校彫刻科で学んでいる時、現地で茶道を教える野尻命子さんに出会った。「裏千家ローマ出張所」を統括する彼女の教室では、有名な作曲家、芸術家、詩人、ヴァチカンの神父など、様々な職業の方が真剣に茶の湯に取り組んでいました。彼らは単におつきあいとか日本趣味といった軽い気持ちではなく、己の人生への取り組みを通して、深く茶の湯の精神に啓発されてここに集まってきたのです。自分自身の人生や信仰、あるいは芸術的な観点から、彼らは茶の湯を見つめ、感動し、自分の言葉で熱く語った。僕は生き生きとした彼らの言葉に魅了され、茶の湯の稽古を初めてローマで始めました。ローマでの生活は自分に日本的なるものを目覚めさせ、結局ローマ滞在2年目の終わり頃、茶碗を作ることを考えるようになりました」。

「僕が心を揺さぶられたのは、茶碗は『用』を持っていることです。単に『用の美』と言われる機能美のようなことではなく、『用』とはとても優しい。生きることと同じように優しい。自己表現を人に押し付けるのではなく、一碗の茶碗が、温かいね、優しいね、勇気がもらえたね、と見知らぬ人の心を和ませばそれだけでよい。『用』は人の行為の中に見いだせる優しさです。その様に思ったとき、茶碗を作ってみようと決心した」。27歳の時、ローマから京都に戻り、樂茶碗のイロハから学ぶことになる。

ところが樂家では教えない。自分で見て、感じて、試行錯誤を繰り返して、自分の茶碗の世界を作っていく。「父が『一子相伝で伝えるということは教えないことです』と言い切るのを漏れ聞くと、

自分の茶碗の世界をしっかり作り上げなければと覚悟しました」。

◇

上京区140周年を記念して、4月に北野天満宮文道会館で開催の「上京の奇跡 現代の技展」に出品された黒樂茶碗の銘「浣花渓」と、赤樂茶碗の銘「花仙」の二つ。艶やかな漆黒と、ふっくら愛らしい赤茶碗との対比。「浣花渓」は唐の詩人杜甫の庵「浣花草堂」の言葉の響きをイメージして銘命された1990年の作。「花仙」は本阿弥光悦の「乙御前」を意識した1983年の作で、十五代襲名記念初個展に出品されたもの。

十五代のこの2作だけではなく、長次郎に始まる歴代の樂茶碗は1978年開館の樂美術館や、2007年に滋賀県守山市にある佐川美術館に開設の樂吉左衛門館などで鑑賞出来る。

◇

轆轤（ろくろ）を使わず平らな円形状にした厚めの土を、両掌で少しずつ周囲から「手にすっぽりとおさまるように」立ち起こしていく。手で感じて、目で見て、体が覚える「手づくね」といわれる独自の方法で作られる樂茶碗。長次郎の時代に始まり、轆轤成型ではない個性が感じられる。「樂家の窯は400年間ほとんどそのまま。4月と11月に黒の窯、6月末くらいに赤の窯、12月末にもう一度赤の窯を焚く。好き勝手に窯が焚けるわけではない。窯自体が季節を選びます。これはといえる作品が一度の窯で3碗か5碗あれば大喜びです」「黒と赤では窯が違い、黒の時は14～15人が手伝ってくれます。登り窯のように1度にいくつも焼くのではなく、一碗ずつ焼くのですが、窯は生き物です。一碗一碗様子は異なり、焼き上がりも異なります。」真夜中に火を入れて夕方6時近くまで、備長炭をつぎ足し、ふいごを吹き続ける中で、灼熱の炎の中から一碗の茶碗が生まれる。

茶碗づくりに欠かせないのが土。今使っている土は曽祖父（ひいじいさん）（十二代弘入）が見つけたもの。明治から百年近く土小屋に残されていたのを砕いて練ってさらに寝かせて、そこからようやく制作が始まる。「私は曽祖父が見つけた土を使っているので、私は曽孫（ひまご）のために土を見つけなければならない。幸い聚楽第の遺構から出た土に巡り合え、縁あって奈良薬師寺様から国宝東塔の基壇の土を戴いた。黄色いとても佳い土で私や吉左衛門が少々使っても大丈夫な量です」。

「茶碗にはその時々の自分の姿が現れて、変化していきます。若い時は世の中の常識や制約に刃向かい挑戦もしましたが、歳と供に自分の激しい主張が少しずつ引き始めモノトーンに戻りつつある。充分に戦ってきたのだからもういいよねと……別な戦い方があると思い始めています。息子が襲名して2年後に襲名披露の個展をしたら、私も隠居の個展を開いてみたいと思っています」。

赤樂茶碗 銘「花仙」

黒樂茶碗　銘「浣花渓」

ぶらり上京

上京で守られてきた 明治洋風建築 そのⅡ

京都産業大学　日本文化研究所
上席特別客員研究員　小嶋　一郎

今回は京都府庁の明治洋風建築についてご案内します。

明治の世が始まり、それまで京の都の政治を取り仕切っていた江戸幕府の出先機関である「京都所司代」や東町・西町両奉行所もその使命を終え、新政府の地方組織である「京都府」が、明治元年（一八六八）に現在の神泉苑の西側に誕生します。そして翌年の明治二年（一八六九）には現在の上京の地に一旦移ります。この地はやはり幕府の出先機関であった京都守護職上屋敷が置かれていた場所です。ところが京都府中学校がこの地に建てられることになり、京都府庁は二条城の中に引っ越します。しかしやがて中学校が別の場所に移転することになったため、京都府庁は、明治一八年（一八八五）再び現在地に移ってきました。その時から現在までその場所は変わっていません。

つまり京都府庁は最初から現在地にあったわけではなく、先ずは現在の二条城近く（神泉苑の西）でその歴史が始まり、現在地に移転、今度は二条城内に移転、現在地にまたまた移転。と、引っ越しを繰り返していますが、いずれも旧幕府の治めていた機関の場所に絡んでいるのです。これは旧体制（幕府）から、新しい体制（新政府）に政治が移るという意識を民に印象付ける意味合いが強かったのかもしれません。

京都府庁　旧本館　重要文化財

竣工：明治三七年（一九〇四）
設計：松室　重光

現在、京都府庁には明治から現在に至るまで、新旧様々な時代の建造物が存在しますが、その中央で雄々しく佇む旧本館は、存在感を放っています。ルネサンス様式を基調とする本格的な公共的庁舎建築といえるでしょう。設計者の松室重光は、限られた予算の中、存在感のある建築を表現すべく、デザインやカラー、そして材料を工夫・工面したとされています。そしてこの明治を代表する建造物は、庁舎建築として「最も範とするに足る存在」と評価され、その後の府県庁舎建築の手本となりました。空撮写真を見ますと、ほぼ正方形に近いロの字型で、正面玄関はひと際高く、重厚感があり、中庭は桜を中心に、庁舎の窓から見る景観はまるで一幅の絵画のようです。

京都府庁　旧本館

旧知事室

旧本館　南東側2階

旧知事室

旧知事室は、第十代知事 大森鍾一から第三四代知事 蜷川虎三までの六六年間（明治三八年（一九〇五）から昭和四六年（一九七一）二四人に渡って使用されてきました。ちなみに現在の知事室は新館に移っています。旧知事室は旧本館二階の南東角に位置し、東側の窓から東山三十六峰ほぼ全てを望む絶好のポジションです。重厚なドアは二か所に有り、一方は知事をはじめ、府庁職員が出入りする扉、もう一方は知事室を訪れる客人が出入りする扉です。また、この部屋には洋風の大きな暖炉がアクセントして置かれ、特徴のある装飾が室内に施されています。そして、重厚な廻り縁、格天井など、他の部屋よりも装飾に凝った造りとなっています。

正庁（せいちょう）

旧本館　正面玄関2階

その名のとおり、正庁は儀礼の中心施設であり、多くの公式行事や、海外をはじめ多くの来賓の接遇などに使用されてきました。「大正天皇即位の礼」（大正四年）や「昭和天皇即位の礼」（昭和三年）の際には、この正庁が政府の臨時閣議の場として使用されました。また、人類初の有人宇宙飛行士ガガーリンは、昭和三七年に京都府庁旧本館を訪れ、正庁から南へ張り出したバルコニーから訪れた日本人達の歓迎に手を振り、親愛の情を示しました。

正庁

お葬式 家族葬
公益社
ブライトホール —— 8ヵ所・52式場
北ブライトホール［堀川紫明］　山科ブライトホール［五条外環］
中央ブライトホール［五条東山］　向島宇治ブライトホール［宇治槇島］
南ブライトホール［油小路八条］　大津ブライトホール［大津駅南］
西ブライトホール［五条西大路］　大津ブライトホール北館［大津駅南］
0120-004-200　24時間365日対応、無料相談　京都 公益社　検索

旧議場

旧本館　北側1階

明治三八年（一九〇五）から昭和四四年（一九六九）まで、実際に京都府議会が開催されてきました。現在は新しい別棟が建設され、京都府議会はそちらで定例的に開催されています。旧議場は、現存する明治時代の貴重な文化財であり、平成二六年（二〇一四）に一階部分の修理が完了、それ以来一般公開されるようになりました。議長席の机、理事者席の机及び演台などは明治当初のものを使っています。また、漆喰壁や議員席、赤絨毯等も当時の状況を再現して公開しています。

旧議場

中　庭

中庭

旧本館　中央1階（地上）部分

中庭中央には大きな「枝垂桜」が有ります。昭和三〇年代に桜守として知られる一六代佐野藤右衛門が先代とともに円山公園の「祇園枝垂れ桜」の実生木（種から育った木）を植えたもので「初代枝垂れ桜」からみて孫桜にあたります。

また、中庭の南西隅にある容保桜（かたもりざくら）と呼ばれる桜は、大島桜と山桜の特徴をもつ白く上品な桜です。京都守護職上屋敷が、幕末期この府庁の場所にあったので、京都守護職に任ぜられた会津藩主・松平容保に因み、十六代佐野藤右衛門によって名付けられました。

西京白味噌®
㈱本田味噌本店
京都市上京区室町通一条宝五八
http://www.honda-miso.co.jp

香木・薫香・匂香
山田松香木店
〒602-8014
京都府京都市上京区勘解由小路町164
（室町通下立売上ル）
TEL（075）441-4694
FAX（075）441-1124

西陣名技碑

五世伊達弥助の生誕百八十年によせて

京都市歴史資料館　秋元　せき

北野天満宮北門前の「西陣名技碑」

〝天神さん〟として親しまれる北野天満宮（京都市上京区）の北門前東側に、「西陣名技碑」と題する石碑がある。

この碑には、北垣国道（前京都府知事、当時京都美術協会会頭）による撰文が、巖本範治の揮毫により刻まれている。北垣国道の撰文は、明治二十六年（一八九三）九月に書かれたものであるが、碑の建立には時間を要したようで、明治二十八年に平野神社の社地（平野桜橋東畔）に建立された。この碑はその後、新道路敷設にともない、昭和十二年（一九三七）に北野天満宮に譲渡され、現在に至る。

北野天満宮北門前の「西陣名技碑」

西陣名技碑が建立される経過を伝える史料として、一般財団法人西陣織物館に、『第五世伊達弥助名技碑建立奉加帳』が残されており、これは、京都市歴史資料館架蔵写真帳「西陣織物館所蔵伊達家文書」として公開されている。

この文書をみると、名技碑建立の発起者は、主に西陣の機業家層であった。西陣青年会をはじめとして、西陣機業家の鳥居喜兵衛・小西善兵衛・池田有蔵・今西平兵衛・佐々木清七・人見勘助・富田半兵衛・宅間佐助・川島甚兵衛のほか、機業家以外にも、陶工の伊東陶山、七宝工の並河靖之らが名を連ねた。また、奉加帳には、九鬼隆一（帝国博物館総長）・花房義質（宮内次官・明治美術会会頭）・北垣国道（前京都府知事・京都美術協会会頭）・品川弥二郎・大隈重信らの署名・捺印があり、こうした人々の賛同により建立されたものであったことがうかがえる。

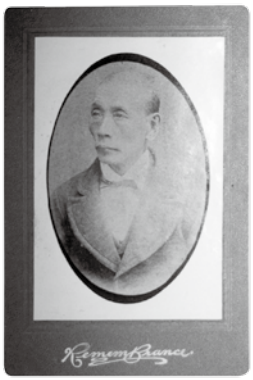
四世伊達弥助(周斎)とその子五世弥助

伊達家（井筒屋弥助）は、代々堀川頭に居住した西陣の機業家で、なかでも、四世伊達弥助（一八一三～一八七六年、号・周斎）は、「西陣の救済者」を自認する人柄であった。

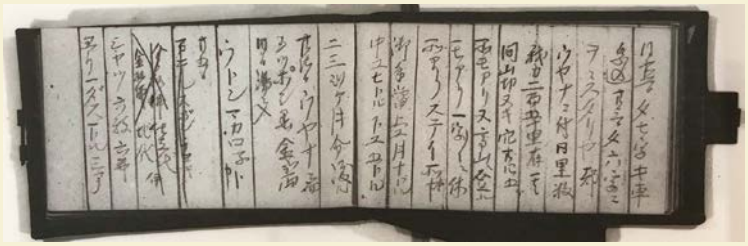
幕末の不況で生活困窮者が急増した際、万延元年（一八六〇）に、西陣で暴徒が糸問屋等を襲撃する〝打ち壊わし〟が起こった。このとき、四世弥助は西陣機業家総代に選挙され、町奉行所から下賜された玄米一千石と、有志者からの救助米を西陣の困窮者に分かち与えるなど、西陣の復興につとめた。

西陣機業家を代表する存在となった四世弥助は、明治六年（一八七三）のウィーン万国博覧会に派遣されることになり、約一年にわたって欧州に滞在した。フランス・ドイツ・スイス・イタリアの機業地で洋式の織技を学び、オーストリア製ジャカード機を始め、各国の織物標本一二〇〇種を収集して帰国した。渡欧時に弥助が携帯していた手帳や、ウィーン万国博覧会に梨子地織物を出品した際に下賜されたメダルなどは、西陣織物館に保存されている。

また、四世弥助は、一八七五年七月七日には、明治天皇の行幸を



伊達周斎（四世弥助）



明治６年渡欧時の伊達周斎の手帳（京都市歴史資料館架蔵写真帳 Km146）

ウィーン万国博覧会で伊達弥助に下賜されたメダル　明治6年8月18日
（一般財団法人 西陣織物館所蔵）

お客様の笑顔が、私たちの喜びです。

株式会社フラットエージェンシー

京都の住まい探しはお任せください。

賃貸住宅　不動産売買　資産活用　管理

テナント　マンスリー　建築・リフォーム　TAMARIBA

京都府知事免許（8）第 7189 号　公益社団法人京都府宅地建物取引業協会会員　公益社団法人近畿地区不動産公正取引協議会加盟店

フラットエージェンシー

迎え、洋式織機の運転を天覧に供した。

帝室技芸員としての伊達弥助

五世伊達弥助（徳松）は、天保十年（一八三九）八月に生まれた。

五世弥助の経歴のなかで、最も注目されるのは、明治二十三年（一八九〇）十月に、第一回の帝室技芸員に任じられたことであろう。帝室技芸員とは、明治維新以後の美術工芸家の窮状を打開すべく、帝室の保護により直接に美術工芸を奨励しようとする目的で設立された「宮内省工芸員」の制度を前身とする。

第一回の帝室技芸員には、伊達弥助のほか、日本画の狩野永悳・橋本雅邦・田崎草雲・森寛斎・守住貫魚、彫刻の高村光雲、石川光明、金工の加納夏雄、漆工の柴田是真の十名が選ばれた。帝室技芸員は、一九四四年までに計七十九名が任命されたが、織物の分野で任命されたのは、帝室技芸員制度の全期間を通して、伊達弥助と川島甚兵衛の二人だけである。川島甚兵衛も、伊達弥助に製織を学んだ経歴をもつ。

五世 伊達弥助（帝室技芸員）

このように、五世伊達弥助は、西洋の近代的な製法を学び、西陣機業の革新に貢献して注目を集めた。しかし、五世弥助の業績として、より注目すべき点は、美術織物の重要性を打ち出したことである。伝統的な空引機（花楼）が美術品の製作に適していることを指摘し、より上質な織物を産み出すためには、織物の「美術品」としての価値を意識することが重要であると説いた。

このため、弥助は自身の工房においては、ジャカード機を主軸に採用しようとはしなかった。西陣織の伝統的な空引機（花楼）の技法を重要視し、非効率であってもこれを廃すべきではないと考えていたからである。

また、五世弥助は、明治十八年（一八八五）六月の大水害で、西陣機業が打撃を受け、失業者が街にあふれた時、「救助機」を設け、困窮する職人らに仕事を与えたという。伊達弥助は四世・五世とも、地域社会における救済事業の担い手であり、名望家であった。

五世弥助は、明治二十五年（一八九二）に五十三歳で死去した。四世・五世の伊達弥助が生きた時代は、西陣機業が輸出織物の増加を背景に順調な発展をみせた時代であった。こうした時代を担った西陣の先駆者に対する人々の想いが、「西陣名技碑」に結集されたといえるであろう。

○参考文献　永田外次郎編『西陣名技碑に想う』一九七〇年。／秋元せき「西陣の近代化と帝室技芸員伊達弥助」『京都市歴史資料館紀要』十七号、二〇〇一年。

柔道圓心道場
〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL（075）441-1968／FAX（075）441-2972
山﨑接骨院
〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西入上ル相国寺西門前町 647
TEL（075）451-6050／FAX（075）451-6051
http://www.enshin.sakura.ne.jp/

新・古茶道美術品
清昌堂
やました
京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL（075）431-1366
FAX（075）431-1370
東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL（03）5261-4566
FAX（03）3235-5677

新 上京の昔ばなし

蹴鞠の守護神　精大明神

白峯神宮の摂社に鎮座

平安時代から宮廷競技として朝廷や公家に親しまれ、今日に伝わる蹴鞠（けまり）。鹿革製の7～8寸の鞠を、革の沓（くつ）を履いた鞠足と呼ばれる4人から8人の蹴手が右足の甲で一定の高さに蹴り上げ、地に落とさないよう受け渡す優美な競技で、蹴り上げる高さの基準となる式木を四方に植えた鞠壺（まりつぼ）または懸（かかり）と呼ぶ庭で行われる。この式木は北東が桜、南東が柳、南西が楓（かえで）、北西が松とされる。基本的に勝敗がなく、相手に受けやすいパスを送ることが最も大切で、相手が蹴り損なうと渡し方が悪いことになる、精確なボールコントロールが求められるゲームだ。

白峯神宮

白峯神宮（上京区今出川通堀川東入飛鳥井町）の摂社の一つ地主社（じしゅしゃ）の精大明神（せいだいみょうじん）は蹴鞠の守護神、例祭日の7月7日に今年も境内で蹴鞠神事が奉納された。同宮は1868（明治元）年9月、明治天皇の勅命で、堂上公家の飛鳥井（あすかい）家屋敷跡に社殿を造営して、讃岐国坂出の白峯陵から崇徳天皇の神霊を迎え、白峯宮と称したのが始まり。73（明治6）年に淡路島から淳仁天皇の神霊を合祀して官幣中社となり、1940（昭和15）年に官幣大社に昇格した。

拝殿

飛鳥井家が代々お祀り

崇徳天皇は平将門・菅原道真と並ぶ「日本三大怨霊」に挙げられ、淳仁天皇は「廃帝」「淡路廃帝」と呼ばれて歴代天皇に数えられず、明治に入って諡（おくりな）された。配流地で生涯を閉じられた二人の天皇の悲運の生涯から、「祟り神」として恐れられる御霊が異郷の地にあるのはよろしくないと呼び戻し、「都の守護神」としてお祀りしたのが起源。

飛鳥井家は和歌・蹴鞠の宗家で明治維新に伴い東京に移ったが、

同家の祖飛鳥井雅経（1170～1221）（※1）が奉祀、代々受け継いできた精大明神は境内に摂社として残った。

98年6月に第16回FIFAワールドカップがフランスで開催され、日本チームが初出場した際、新聞やテレビなどで「精大明神は蹴鞠＝サッカーの守護神」などと喧伝されたのをきっかけに、広く世に知られ、参拝者が増えだした。2001年に蹴鞠の碑が建立され、現在ではサッカーだけでなく球技全般およびスポーツ全般の守護神と称され、社殿の前にはアスリートたちが奉納した勝利祈願のサイン入りボールがいくつも並ぶ。修学旅行の中高校生がタクシーで乗り付け、地図を片手に近辺を歩く人々の姿は日常の光景になっている。スポーツにちなんだお守りが有名で、叶う輪という縁起物もある。

蹴鞠の碑

勝利祈願のボール

蹴鞠に情熱注いだ成通

蹴鞠を語るとき第一に忘れられないのが白河上皇に侍従として仕えた藤原成通（1097～1162頃）である。蹴鞠は鎌倉時代、後鳥羽院の頃に体系化され、難波流と飛鳥井流の2流派に分れたが、いずれの家元からも後世まで「蹴聖」と呼ばれて、長く蹴鞠の手本とされた。やがて難波流は衰退、飛鳥井流が室町以後江戸時代を通じて主流となって、将軍家御師範家として栄えた。

成通は立ち振る舞いが優美で明朗闊達、誰からも好かれ、笛の名手で今様もみごとに歌うという、白河上皇の取り巻きの中でもずば抜けた才能の持ち主だった。歴史書『今鏡』には、身軽で敏捷な動きをする、馬を上手に乗りこなす人物だと紹介されているが、中でも特に蹴鞠に情熱を注いだという。そんな成通の逸話が『成通卿口伝日記』（塙保己一編『群書類従』第19輯・巻354）に記されており、そのいくつかを記しておこう。

鞠雲の中へや入にけん

▽宮中にある侍臣の詰所で、台盤や人の上に乗って鞠を蹴り上げてみせた。台盤の上で鞠を蹴る音はしても台盤に「沓のあたる音を人々にきかせず」、また肩や頭に乗られた者もせいぜい「鷹を手にすへたる」ほどの肩の重み、「平笠をきたる心地」がするくらいの頭の重みにすぎなかったという。これは、それを見た侍の一人が「涙を落してほめ感じたり」というほどの美技であったらしい。（27条）

▽父宗通に従って清水寺に参籠

ぼたん鍋と京料理
元祖
畑かく
京・上御霊前烏丸西
☎〇七五・四四一・〇六一〇(代)

蹴鞠神事

した際、舞台の高欄の上を、鞠を蹴りつつ何度か往復してみせた。これを聞いた父は激怒して息子をすぐに寺から追い出し、家にもひと月ほど寄りつかせなかったという。（28条）

▽雲入といって鞠をひたすら高く蹴り上げその高さを比べあう余興を行なうことがある。あるとき成通の蹴った鞠は空高く上がり、文字どおり雲の中に入ってしまい、ついに戻ってくることはなかった。

空にて早風やありけん、見えぬ程に巻揚げられて、其鞠雲の中へや入にけん、見えずしてやみにき。（29条）

▽坊門殿で牛車を4本の式木のうちの1本に見立てて蹴鞠を行った。牛車の向こう側に鞠がそれても、車の下をすばやく走りくぐって、鞠を落とすことなく庭の中央に戻してみせた。人びとは「早業不思議也」と騒ぎたてたが、父宗通はそれを見て「是ほどの事になりぬれば、ともかくもいふべきにあらず」とあきれ顔だったという。（31条）

『口伝日記』によると、成通の鞠に対する努力は常人の域を遥かに超えていた。蹴鞠場に立って練習すること７０００日、うち２００日は１日も欠けることなく鞠を蹴り続け、土砂降りの雨でも仲間と大極殿で練習を欠かさず、病気の時は横に臥せりながら布団の端をまくりあげ鞠を足に当てて感触を忘れないようにした。また暗い夜には蠟燭（ろうそく）の明かりだけで練習をするので、家人は随分と私のことを嫌がったと語り、「かやうに好む人は、むかしも今も誰かありし」と自慢している。

また鎌倉時代の説話集『古今著聞集』（巻11　蹴鞠４１０）には成通の逸話をまとめて収録しており、「屋根の上に寝そべって転がり落ちたが、猫のような敏捷さを見せて何事もなかったように軒端へ座ってみせた」話や、同世代の花園の左大臣こと源有仁（１１０３～４７）が「其の躰、上より物を下げて、土より五寸ばかり上がりて、浮きて見ゆ。おほよそ万人みな消えて見ゆ」と驚いた記述が見られる。

三人の「鞠の精」と対面

成通は蹴鞠上達のために１００日間休むことなく練習を行う誓いを立てた。『口伝日記』を基に、中沢新一氏の著書『精霊の王』（２００３年11月、講談社刊）には、「千日行」満願の鞠蹴り式を盛大に催した日の夜、成通の前に現れた「御鞠の精」とのやりとりが次のように記されている。

文机（ふづくえ）に向かって日記をつけるため墨を摺っていた時のこと。祭壇から鞠が転び落ちて、成通の前でふっと止まった。目を向けると、顔は人で、手足と体はサルのような姿をした3、4歳ばかりの童子が3人立っていた。「お前たちは何者だ」と問うと、童子たちは「私たちは御鞠の精です」と応えた。

成通が3人の名前を問うと、「ご覧下さい」と額にかかった髪をかき上げてみせた。すると一人には春楊花（しゅんようか）、もう一人には夏安林（げあんりん）、あとの一人には秋園（しゅうえん）の文字が金色で

描かれていた。

「鞠は人が蹴鞠をするときには生きてあると言うこともできるが、それをやめてしまえば、もう生きてあるとは言えないだろう。お前たちはそうなったときには、どこに住んでいるのかね」と成通が問えば、鞠精の一人が「蹴鞠が行われているときには、もちろん鞠に憑いています。でも人が蹴鞠を止めれば、私たちは柳の木の生い茂る、気持ちのよい林中の木に戻って住むことにしています。人々が蹴鞠を愛好している時代は国も栄え、よい人が政治を司り、幸福がもたらされ、寿命も長く、また病気もしないと言われています。また蹴鞠は後世にもよい影響を与えると申されます」。

輪廻転生にもよい影響

「蹴鞠が現世によい影響をもたらすとは、そのとおりであろう。しかしどうして死後のことにまで影響を与えることができるのか」と成通。別の鞠の精が「もっともなお考えです。人の心はたえず思い乱れ、浮かぶ思いのほとんどが罪の種子となっています。しかし、鞠を好む人が庭に立つと、鞠の他には余計なことを思わなくなります。そうなれば自ずと心の罪はなくなり、輪廻転生にもよい影響をもたらす縁が生まれるのです。蹴鞠をすれば功徳を積むことになり、ますますお励みなされますよう。蹴鞠をされるときは私たちの名前を呼んでください。すぐに参上してご奉仕申し上げましょう。ただし、まわりに式木のない場所での庭鞠はご遠慮下さい。木から離れると、私たちはご奉仕できません。我々のような者がいると心に留めて下さるならば、私たちはあなたのお守りになって、もっと蹴鞠の技を高めて差し上げましょう」と言って、スッといなくなった。

成通はこの夜の体験に深い衝撃を受け、特別に場所を定めて「まりの明神」の社を建てて、お祀りするようになった。後の記録にはこう書かれている。「侍従大納言成通ときこえし人。この道の奥義をきはめて、神変不思議のことなどもありき…。まりの明神をあがめ申されて、紀行景といふものを神主にさだめられて、種々の神事など行はれける。其みやしろ今にありとかや」（『享徳二年晴之御鞠記』）。

蹴鞠の奥義を極めた成通を守った鞠の精霊こそ、地主神社の精大明神なのだろうか。

（福井　和雄）

白峯神宮の授与品

（※1）飛鳥井雅経　後鳥羽上皇から「蹴鞠長者」の称号を賜られた。飛鳥井流蹴鞠の祖とされ『蹴鞠略記』を著した。また『新古今和歌集』選者の一人で、「小倉百人一首」に「み吉野の　山の秋風さ夜ふけて　ふるさと寒く　衣うつなり」がある。

京都市指定
水を大切に・・・（24時間・年中無休）
水道・下水道修繕工事（空調）・井戸ポンプ設備・建物リフォーム
大西工業株式会社
〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874
0120-350672
消防設備全般

トピックス

上京の辻子

蒔絵町の辻子・鳥屋の辻子

室町通今出川から百五十～百六十メートル上った西側に、今出川校地と新町校地を行き来する同志社大生で賑わう辻子と人通りも疎らな辻子が東西に平行して二筋ある。

「洛中絵図」（1637）には北側を「東御霊ノずし」、南側を「鳥やノずし」、「京町鑑」（1762）には、北側を「蒔絵屋町」、南側を「鳥やノづし」と紹介され、明治二年（1869）に合併して「蒔鳥屋町」になったと「京都坊目誌」（1915）に記されている。

それぞれに蒔絵師や鳥屋の住んだまちと思われる。「蒔絵」と「撒き餌」が結び付き、この地域の特色をよく表し、日本語には全くない「蒔鳥屋町」という不思議な町名が誕生することとなった。

元禄期（1688～1704）には「鍋屋之辻子」とも呼ばれていたという。

この辻子の室町通より東の辻子は「聖護院（正後院）之辻子」と呼ばれるが、これは現在左京区にある聖護院が延宝三年（1675）に焼失するまでこの地にあったことによる。

NPO法人 都草　山本 喜康

KAMIGYO EVENT

上京区140周年記念　第55回上京薪能

上京区文化振興会及び上京区役所では、豊かな歴史に育まれた伝統文化を継承し、発展させることを目指して、昭和40年から毎年「上京薪能」を開催しており、今年で55回目を迎えます。

古典芸能に親しむ区民の皆様による発表と、上京区在住の観世・金剛・大蔵の各流派の能楽師による能と狂言をお楽しみいただける豪華な舞台として、今では、上京の秋の風物詩として親しまれています。

秋の夕暮れどき、かがり火に照らされた白峯神宮で幽玄の世界を御堪能ください。皆様の御来場をお待ちしております。

日時　令和元年 **9月20日（金）**

第一部開演 午後4 時（午後3 時30分開場）
第二部開演 午後6 時
終演予定 午後8 時20分ごろ

場所　**白峯神宮**（上京区今出川通堀川東入北側）

※雨天の場合　河村能舞台
（上京区烏丸通上立売上ル柳図子町320-14）

○ 番組

・第一部
各社中による仕舞、舞囃子、独調、箏演奏の発表

・第二部
麗調会・箏「飛鳥の夢」、観世流・仕舞「駒ノ段」、「柏崎」、「天鼓」、金剛流・仕舞「玉之段」、観世流・舞囃子「安宅」、大蔵流・狂言「仏師」，観世流・能「羽衣」

○ 入場料

前売券 2,000円
当日券 2,500円

※前売券は、8月20日（火）から上京区役所地域力推進室（1階1番窓口）と白峯神宮で販売します。
※雨天の場合、当日券の販売は行いません。

○ 主　催

上京区文化振興会、上京区役所

○ 問合せ先

京都いつでもコール ☎075-661-3755 FAX 075-661-5855
※おかけ間違いに御注意ください。

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。（TEL441−5040）
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

レストラン Blanc Vert ブラン・ヴェール

【Lunch】
◆日替わりランチ（月～土） ¥1,000
◆ランチセット …… ¥1,200～

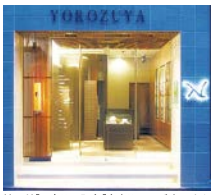
【Dinner】
◆シェフおすすめコース ¥3,300
◆フレンチスタイルのコース ¥3,300
◆イタリアンテイストのコース ¥3,300

レストラン ブラン・ヴェール
☎ 075 (414) 9881

ホテル ルビノ京都堀川
〒602-8056 京都府京都市上京区東堀川通下長者町3-7 Phone:075(432)6161 Facsimile075(432)6160
京都御所始御門徒歩8分

鑑定書不要!
ダイヤモンド&宝石各種、絶賛高価買取中!
宝石・貴金属の鑑定は、FGA（英国宝石学協会）認定資格者が行いますので鑑定書は不要です。
宝飾・時計 ブランドバッグ 美術品・書画・骨董

YOROZUYA 四条店
ドライブスルー質屋 加藤商店グループ
(株)よろず屋 四条店 『楽天市場』にも出店中
京都市中京区東洞院通四条上ル「大丸京都店」北隣
TEL.075-241-7900 年中無休
◎営業時間／買取 10:00→19:30
販売 11:00→19:30
〈本店〉創業70年
京都市上京区烏丸通今出川下ル（地下鉄今出川駅すぐ）
0120-25-0700
◎営業時間／11:00→19:00（土曜日は18:00迄）
◎定休日／日・祝 ◎駐車場10台完備
京都 よろず屋 検索 京都 加藤商店 検索



地下鉄「四条駅」・阪急「烏丸駅」20番出口すぐ

関西テレビ放送 よーいドン！のコーナー 『となりの人間国宝さん』に紹介されました。

●神学部 ●商学部 ●スポーツ健康科学部
●文学部 ●政策学部 ●心理学部
●社会学部 ●文化情報学部 ●グローバル・コミュニケーション学部
●法学部 ●理工学部 ●グローバル地域文化学部
●経済学部 ●生命医科学部

Doshisha University
同志社大学
https://www.doshisha.ac.jp/

お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL:(075)251-3120

酢一筋の商い、伝統の滋味。
伝統（きのう）から未来（あした）へ
京・西陣 孝太郎の酢
(有)林孝太郎酢醋
京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL(075)451-2071
FAX(075)451-8028

創立以来八十五年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気に包まれつつ就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手にします。

学校法人 北野幼稚園
京都市上京区御前通一条下る （北野天満宮バス停下車南100m）
TEL.463-0111(代)
http://www.kitano.ed.jp/

「たのんでよかった！」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。
西陣の大工さん
みずほ工務店
TEL.075-204-8283
http://www.mizuho-koumu.com
京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

表紙題字／吉川蕉仙氏　表紙写真／浄福寺：夾竹桃　水野克比古氏

令和元年八月十五日　発行
上京区民ふれあい事業実行委員会
協力　編集・主管　上京区文化振興会・上京区役所
京都市歴史資料館
印刷　和光印刷株式会社

夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院

洛和会丸太町病院

24時間 365日
内科・外科救急対応

耳鼻咽喉科救急対応
（平日 午後7時～午後11時まで）

TEL 075（801）0351（代）
診療予約専用 0120（489）244

http://www.rakuwa.or.jp/maruta/

MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子
マールブランシュ 京都 北山本店
〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-8:00PM 年中無休（喫茶10:00AM-8:00PM）
www.malebranche.co.jp
商品予約専用フリーダイヤル 0120-668-399

京都御所近くの運送屋です。

\こんなん運べますか？/

いつでもご相談お待ちしています。

引越しサービス
重要書類の安全なリサイクル処分
ダイレクトメール（DM）・メール便配達
旅行カバン・手荷物配送
固定先ルート配送・トラックチャーター 他

株式会社デリバリーサービス
〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上る大文字町 238
TEL 075-211-6541 FAX 075-211-6875
http://www.delivery-service.jp